

教科教育学コンソーシアム第4回シンポジウム
教科教育学研究のメソロジー：
私たちは何のために何をどのように研究しているか

2024.3.10 於：一橋講堂

科研成果中間報告

教科教育学研究のメソロジー

貴志 倫子（福岡教育大学） 山元 隆春（広島大学）

本報告にかかる教科教育コンソーシアム研究会の実施状況

研究会	報告内容	報告者
第7回 2023.8.6	ターミノロジー研究の開始（研究の問いと方法） 全国社会科教育学会・日本理科教育学会の場合	草原和博（広島大学） 中村大輝（宮崎大学）
第8回 2023.9.10	先行研究の検討：日本科学教育学会における調査研究から	中村大輝（宮崎大学）
	社会科教育学におけるメソドロジーの特徴 －全国社会科教育学会の場合－	石川照子（三重大学） 川口広美（広島大学）
第9回 2023.11.5	数学教育学におけるメソドロジーの動向分析	岩田耕司（福岡教育大学）
	体育科教育学研究（2013-2023）にみる研究方法論	岡出美則（日本体育大学）
第10回 2023.12.24	国語科教育学の研究方法論－私たちは、何のために、何を、どのように研究してきたか、研究しているか、研究しようとしているか	山元隆春（広島大学） 勝田 光（筑波大学）
	日本家庭科教育学会誌にみる家庭科教育研究のメソドロジー	貴志倫子（福岡教育大学） 荒井紀子（元福井大学）
第11回 2024.1.24	日本地理教育学会『新地理』掲載論文にみる方法論の傾向と特質	阪上弘彬（千葉大学） 鈴木 允（横浜国立大学）
	道徳（科）教育研究におけるメソドロジーとは？	走井洋一（東京家政大学）
第12回 2024.2.18	中間報告まとめの検討	—

中間報告の目次

1. 教科教育学のメソドロジー研究の手続き

2. 加盟学協会等の学会誌掲載論文調査

分類枠組みの検討プロセスと調査の進め方

共通の分類枠組みを用いたメソドロジーの傾向

3. 教科教育学の研究方法

加盟学協会等のメソドロジーの経年傾向

国内外の教科教育学のメソドロジー研究の整理

4. 教科教育学のメソドロジーにおける課題

貴志

山元

教科教育学コンソーシアム第4回シンポジウム
教科教育学研究のメソロジー：
私たちは何のために何をどのように研究しているか

2024.3.10 於：一橋講堂

科研成果中間報告

教科教育学研究のメソロジー

－加盟学協会の学会誌掲載論文の分類枠組みの検討－

貴志 倫子（福岡教育大学）



報告内容

1. 教科教育学のメソドロジー研究の手続き
2. 加盟学協会等の学会誌掲載論文調査
 - 2-1 分類枠組みの検討プロセスと調査の進め方
科学教育の先行研究および社会科教育学の分類
 - 2-2 共通の分類枠組みを用いたメソドロジーの傾向
 - 2-2-1 社会科教育 2-2-2 地理教育 2-2-3 数学教育
 - 2-2-4 家庭科教育 2-2-5 国語科教育
 - 2-3 まとめ

1. 教科教育学のメソドロジー研究の手続き

1-1 メソドロジーに関する主な問いと研究方法

- ◆ 各教科ではどのように知識を正当化しているか（認識論・方法論）
- 各教科で認識論に関する議論がどの程度行われているかの情報を共有する
- 各教科の研究でどのような**研究方法**が用いられているかを調査する
 - 時代による研究方法の変化を教科ごとに整理
 - 各学協会発行の学会誌掲載論文で採用されている研究方法を量的に集計
- ◆ 同じ方法でも教科や認識論によって違いがあるか（e.g., “面接”という方法の捉え方）
- 多く採用されている研究方法に着目し、教科や認識論による細かな違いを探る
 - *研究者へのアンケートやインタビューなど
- ◆ 認識論や研究方法の違いは査読にどのような影響を及ぼすか
- ◆ 各教科に固有の研究倫理問題にはどのようなものがあるか

1. 教科教育学のメソドロジー研究の手続き

1-2 加盟学協会等の学会誌掲載論文のデータ化

◆各学協会発行の学会誌掲載論文

概ね過去10年分のデータ抽出

◆各学協会における論文の種別，

査読の有無，掲載数，学会賞受賞

論文の特徴等の整理

◆論文要旨，研究目的，方法の記

述より，研究方法を確認し，量的

に集計

研究方法的分類 ☆ 国 国

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集: 数秒前

100% 123 Calibri 11 B I U A

134 研究論文 (一般)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	ID	著者名	タイトル	年	巻	号	頁	和・欧	種別	1	2	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8
2	18	手塚 晃	科学教育とそ	1978	2	1	p. 23-28	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
3	26	進上 芳雄	光電管による	1978	2	2	p. 57-60	和文	研究論文 (一般)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
4	27	伊藤 秀子・藤田	未知の対象に	1978	2	2	p. 61-71	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
5	36	齋谷 いづみ・佐	科学史にもと	1978	2	3	p. 96-102	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6	37	西岡 正泰	一般教育にお	1978	2	3	p. 103-111	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
7	77	橋高 知義	講義と能動的	1979	3	1	p. 19-28	和文	総説	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8	79	中谷 健治	理科教育病理	1979	3	1	p. 29-36	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	80	内木 堀 弘行・梅	高校化学教科	1979	3	1	p. 37-42	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
10	87	深谷 哲	CAIとは何か?	1979	3	2	p. 53-58	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	88	齋谷 いづみ・佐	高校生物教育	1979	3	2	p. 59-67	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
12	90	大木 道則	英国の科学教	1979	3	2	p. 68-72	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
13	102	竹之内 脩	学校教育にお	1979	3	3	p. 103-108	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	103	南雲 武雄	ソビエトの自	1979	3	3	p. 109-114	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
15	105	戸栗 敏久・堀口	基本的な科学	1979	3	3	p. 115-122	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
16	112	Seizo OTSUKA & M	Science Educati	1979	3	4	p. 149-155	欧文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
17	113	Masayuki NARUSE	Educational Tec	1979	3	4	p. 157-164	欧文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	114	Takashi SAKAMOTO	Instructional De	1979	3	4	p. 165-186	欧文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
19	115	Michinori OKI	School Systems	1979	3	4	p. 187-193	欧文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	201	飯田 恵盛	オープンファイ	1982	6	Special	p. 1-10	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
21	202	戸栗 敏久・堀口	高校物理CAIの	1982	6	Special	p. 11-39	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
22	203	橋高 知義	大学での自主	1982	6	Special	p. 40-59	和文	研究論文 (一般)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
23	204	竹内 万男	教育における	1982	6	Special	p. 60-62	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	205	著者不明	理論, 経験的	1982	6	Special	p. 63-69	和文	研究論文 (一般)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

+

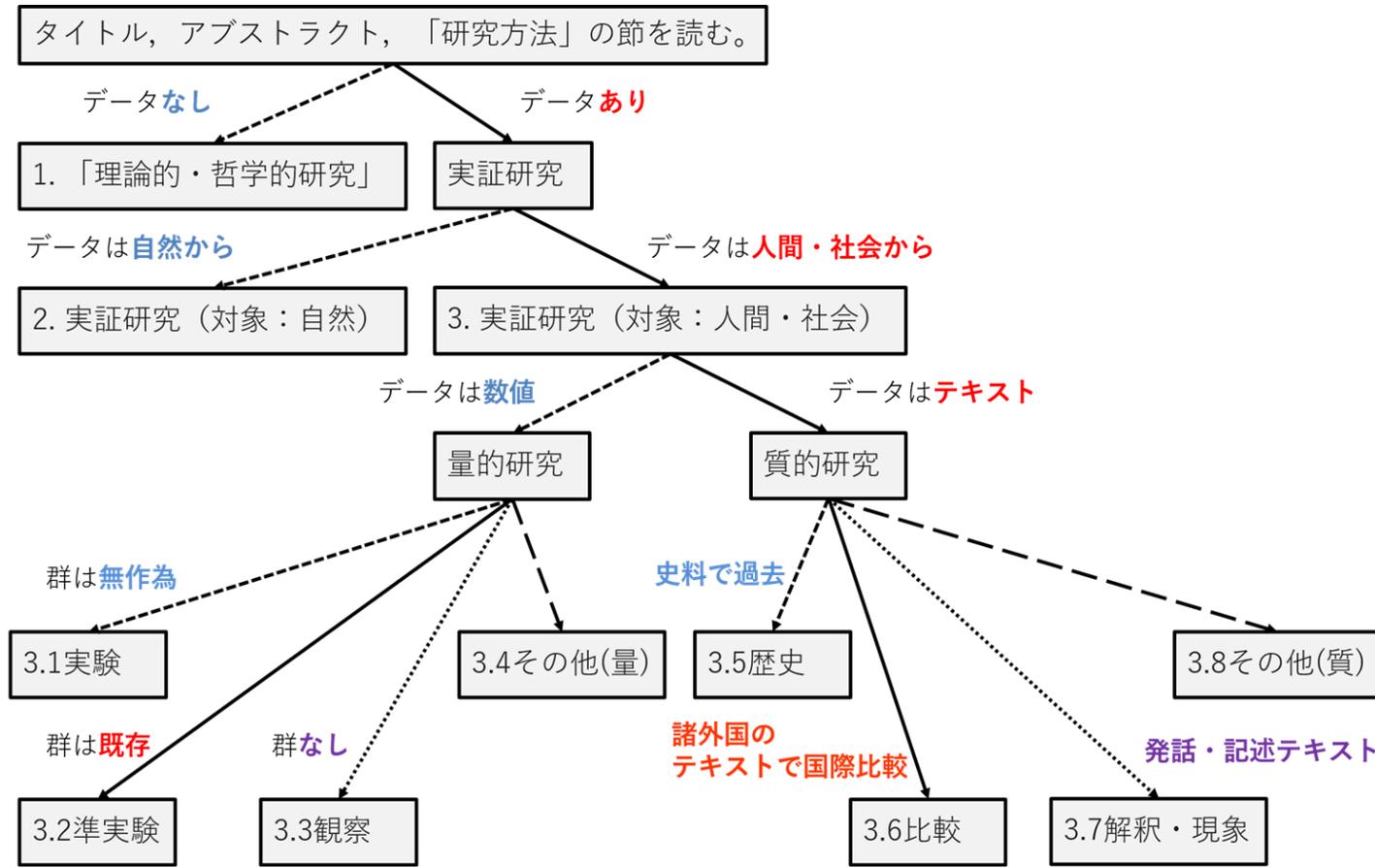
フォーマット

分類フロー

科学教育研究

2. 加盟学協会等の学会誌掲載論文調査

2-1 分類枠組みの検討プロセスと調査の進め方



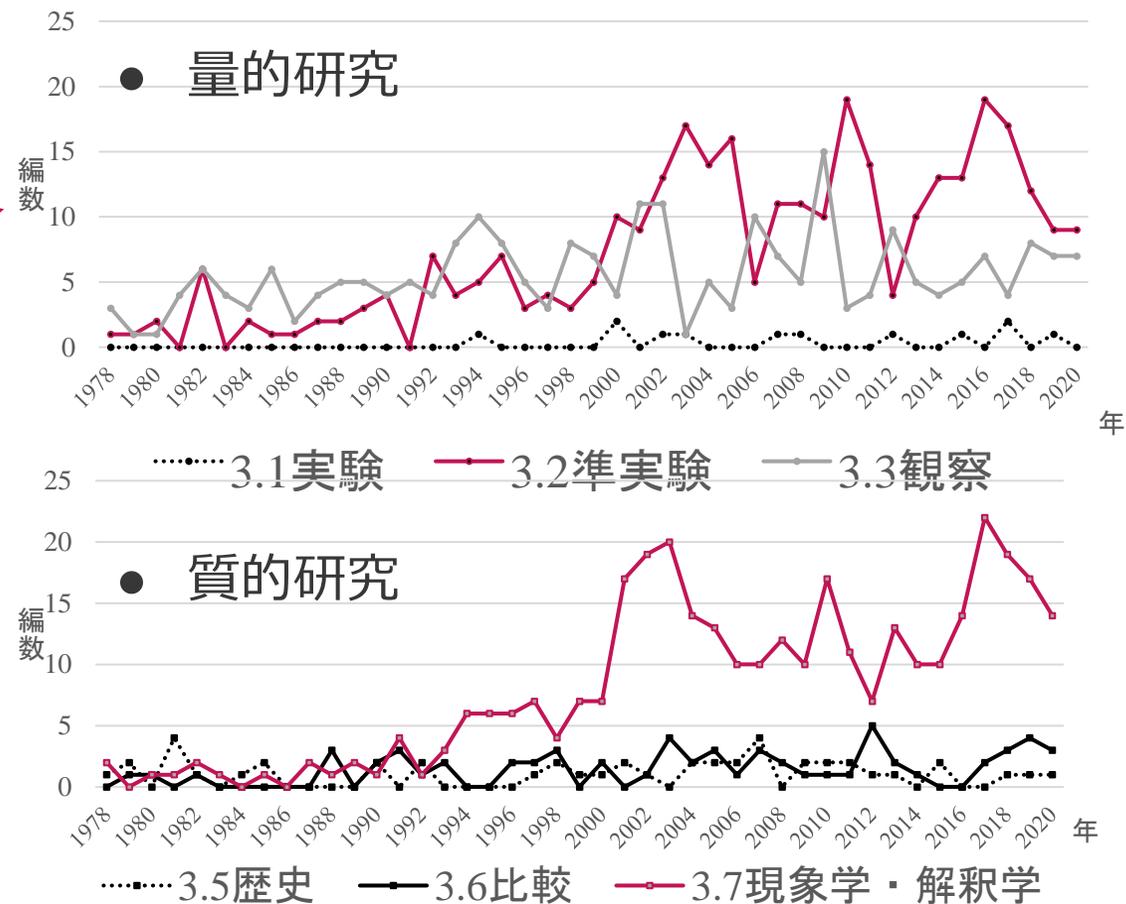
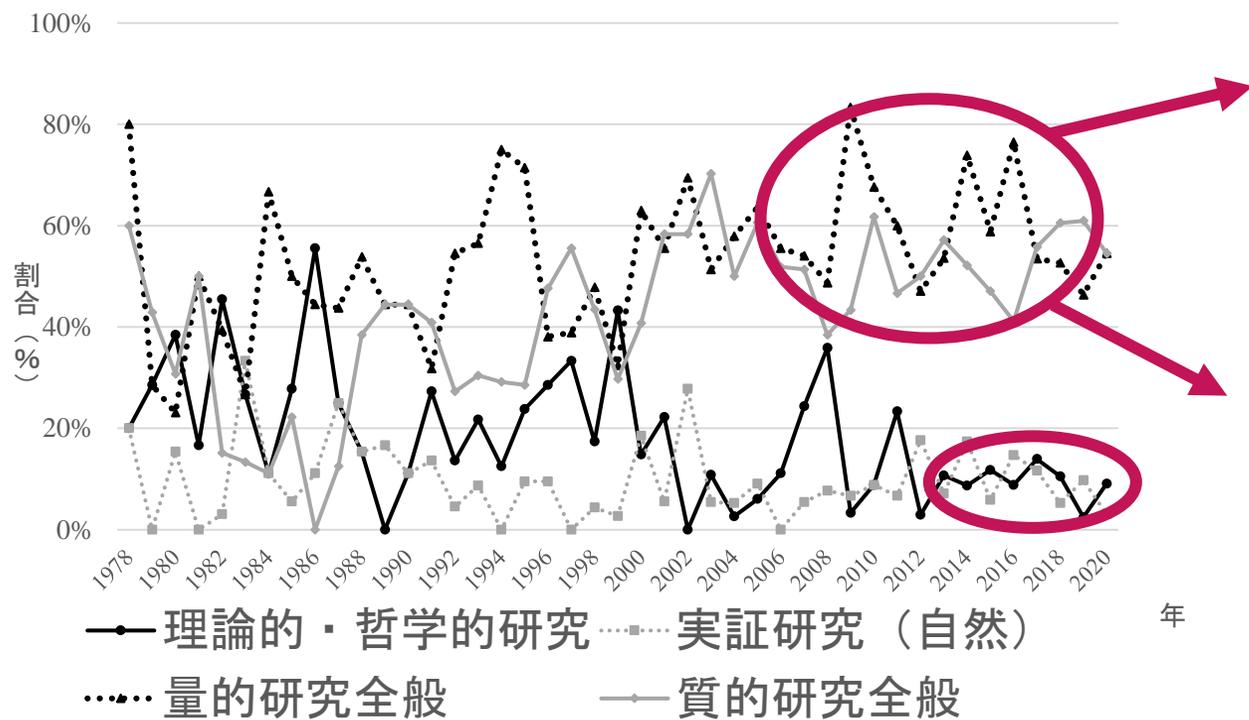
◆既存文献の分類を参考に, 検討と集計を各学協会の状況にあわせて行い, 研究会で情報共有

分類 1

『科学教育研究』誌における
1977~2020年に掲載の1,109本の論文の研究テーマ・方法の傾向をとらえる分類枠組み
(荒谷ほか, 2024)

荒谷,ほか. (2024). 1977-2020年の『科学教育研究』のテーマと方法に関する研究動向. 科学教育研究, 47(4), 423-438. での分類

日本科学教育学会『科学教育研究』誌の研究方法の経年変化



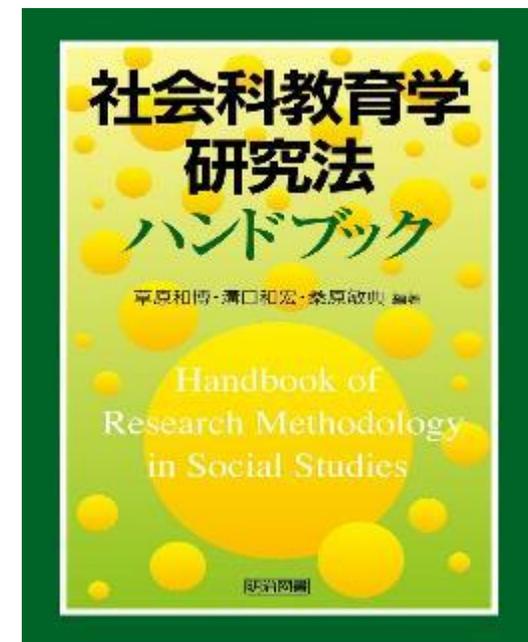
荒谷, 雲財ほか. (2024). 1977-2020年の『科学教育研究』のテーマと方法に関する研究動向. 科学教育研究, 47(4), 423-438.を転載

- ◆ [理論的・哲学的研究]は減少傾向。
- ◆ 他方, 準実験的デザインや解釈的アプローチを用いた教授法に関する研究は、2000年以降増加。

分類2

社会科学教育学における方法論の類型

- ①規範的・原理的研究：より望ましい社会科学とは何か。なぜそれは望ましいか。
- ②実践的・開発的研究：より望ましい社会科学を実現するにはどうしたらいいか。なぜそうするといいか。
- ③実証的・経験的研究：社会科学は、現にどういう環境で、どのように教えられ、学ばれてきたか。それはなぜか



草原 和博, 溝口 和宏, 桑原 敏典 (2015) 社会科学教育学研究法ハンドブック, 明治図書

2-1 分類枠組みの検討プロセスと調査の進め方

社会科学教育学における分類項目

『科学教育研究』誌の分類項目

1 規範的・ 原理的研究	1.1.比較（諸外国）
	1.2.歴史
	1.3.（一般）教育・心理学
	1.4.人文・社会科学（哲学・ 歴史学・地理学等）
2 実践的・ 開発的研究	2.1.開発研究
	2.2.開発+実践研究
3 実証的・ 経験的研究	3.1.量的研究
	3.2.質的研究
	3.3.歴史研究
	3.4.比較研究

1 理論・哲学		
2 実証（自然）		
3 実証 （人間・ 社会）	量的 研究	3.1.実験（無作為群）
		3.2.準実験（既存群）
		3.3.観察
		3.4.その他（量）
	質的 研究	3.5.歴史
		3.6.比較
		3.7.解釈/現象
		3.8.その他（質）

2-2 共通の分類枠組みを用いたメソドロジの傾向

調査対象の一覧

※レビュー文献より

学協会	学術誌	対象論文種別	対象年	対象論文数
日本科学教育学会	『科学教育研究』		1977～2020	1109
全国社会科教育学会	『社会科研究』	研究論文, 萌芽論文	2019～2023	21
全国数学教育学会	『数学教育学研究』	論文	1981～2020	84
日本体育科教育学会	『体育科教育学研究』	総説、原著論文、実践研究、 実践提案, 研究資料	2019～2023	25
全国大学国語教育学会	『国語科教育』	研究論文, 実践論文, 資料	(1980～2022)※ 2017～2023	67
日本家庭科教育学会	『日本家庭科教育学会誌』	研究論文, 資料, 特別論文	(1987～2016)※ 2017～2023	(760) 87
日本地理教育学会	『新地理』	論説, 展望, 研究ノート, 授業実践報告, 調査報告	2013～2022	56
日本道德教育学会	—	CiNii検索「道德教育」論文	2000～2021	

N = 21、重複あり（件）

分類	下位分類	総数
1 規範的・原理的研究 (4件)	1.1 比較（諸外国）	4
	1.2 歴史	-
	1.3 （一般）教育・心理学	-
	1.4 人文・社会科学（哲学・歴史学・地理学等）	-
2 実践的・開発的研究 (10件)	2.1 開発研究	2
	2.2 開発+実践研究	8
3 実証的・経験的研究 (12件)	3.1 量的研究	2
	3.2 質的研究	7
	3.3 歴史研究	1
	3.4 比較研究	2

◆研究類型では、[1規範・原理]は少なく、全て国外の事例を参照。

◆[2実践・開発]：実践までを行うパターンが多い

◆[3実証的・経験的研究]が12件で最も多いが、内5件は他類型（[実践・開発]4件，[規範・原理]1件）との重複。方法では[3.2質的研究]が多い

A：社会科の目標をどのように捉えるのか、その捉え方に基づく研究

B：研究の進展に基づいて、社会科の教育内容を更新することを目的とする研究

C：社会科の目標・内容を固定化し、子どもの実態に即した教育方法の更新を目的とする研究

パターンBの例) 費用便益分析を批判的に組み込んだ小学校公民学習の開発

現状の小学校公民学習は、「人々の願いを国や地方公共団体が受け入れ、政治のプロセスを経て実現する」という一面的な理解にとどまっており、本研究は、その問題意識に端を発している。そこで、経済学の研究成果である費用便益分析を組み込んで、小学校公民学習における授業モデルの開発を試みた。・・・成果は次の2点である。

1点目は、費用便益分析を批判的に組み込んだ小学校公民学習の構成を明示したことである・・・2点目は、1点目の成果をもとに、小学校公民学習の授業モデルを開発したことである・・・(松浪、2021：23)

2-2-1 全国社会科教育学会『社会科研究』誌論文の特徴と研究方法（まとめ） 15

1. 「規範的・原理的研究」が減り、「実践的・開発的研究」と共に「実証的・経験的研究」が増加。主に人を対象とした経験的な調査研究が増加
 2. 「実践的・開発的研究」も、実践検証の要素が強くなり、より準実験的性格をもつようになっており「実証的・経験的研究」との重複も
 3. 「実証的・経験的研究」の中で質的研究が多いのは、①海外の質的研究の影響、②元々解釈的研究が主流であった日本の社会科教育研究の接続性の良さ、などが理由と考えられる
- ◆ 教科教育学は**教育実践との繋がり**が強くなり、実践への貢献を強く求めるゆえ、研究の主の消費者（教師）のニーズにあわせた変容があり得てきた
 - ◆ 教科教育学は**関連学問の研究方法论との関連性**が強くなり、社会科は、人文諸科学の影響が強くなり、社会科教育学の方法论に影響を与えている。
 - ◆ 研究方法论はデータの質のみでの見取りが難しく、「なぜか？」を探る意味でも、**研究目的との関係性は重要**。

2-2-2 日本地理教育学会『新地理』誌論文の特徴と研究方法（結果）

表 社会科教育ハンドブック（一部修正）に基づく分類結果 N = 56（件）

分類	下位分類	総数
1 規範的・原理的研究 (9件)	1.1 比較	9
	1.2 歴史	0
	1.3 教育学・心理学	0
	1.4 人文・社会科学	0
2 開発的・実践的研究 (23件)	2.1 開発研究	9
	2.2 開発的・実践的研究	14
3 実証的・経験的研究 (24件)	3.1 量的研究	3
	3.2 質的研究	14
	3.3 歴史研究	4
	3.4 比較研究	0
	3.5 混合研究 分類を付加	3

◆ [1 規範的・原理的研究]

が少なく、その全てが
[1.1 比較研究]に分類

◆ [3 実証的・経験的研究]

では、[3.1 質的研究]
が多い

→ 『社会科研究』誌と似
た傾向

論文の「分析対象」の詳細と分類項目のクロス集計

対象（データ）／分類	1.1	2.1	2.2	3.1	3.2	3.3	3.5	総計
カリキュラム	4							4
カリキュラム、学術の議論					1			1
カリキュラム、研究史、学会活動						1		1
過去の取組、各国のテスト結果					1			1
学習者		1	14		5		1	21
学習者・教育者					1		1	2
学習者・保護者					1		1	2
教育活動					1			1
教育者		1		2	1			4
教科書	2				4			6
教科書、カリキュラム	1							1
教科書、カリキュラム、授業実践		1						1
教材		1						1
社会的事象		5						5
授業実践						1		1
授業実践、学習者						1		1
先行研究				1				1
先行研究、教材	2							2
総計	9	9	14	3	15	3	3	56

◆研究対象が授業の3要素である「学習者」「教育者」「教材・教科書」に関わるものが多い

論文の「分析方法」の詳細と分類項目のクロス集計

分析方法／分類	1.1	2.1	2.2	3.1	3.2	3.3	3.5	総計
??	1	1			6		1	9
M-GTA					1			1
空間解析		4						4
景観写真による言語描写法					2			2
手書き地図調査					2		1	3
単純集計		1		2				3
単純集計、内容分析			2				1	3
抽出児童分析					1			1
内容分析	6	3	11		1			21
内容分析、単純集計、抽出児童分析			1					1
内容分析、歴史研究					2			2
文献研究				1				1
文献研究、内容分析	2							2
歴史研究							3	3
総計	9	9	14	3	15	3	3	56

◆地理教育の研究方
法（分野）の一つと
して、子どものもつ
空間認知や手書き地
図の実態を解明する
「認知研究」が確立
(他の社会科の分
野・科目では皆無)

- ◆他の社会科学雑誌と比して、論文種別（査読付きが5種）が多い
- ◆「地理学」の影響を受けた種別設定や論文の内容（論証方法）
- ◆解釈はもちろん、その前提となる具体（事実や状況）の丁寧な説明を求める傾向
- ◆論文の構成として地理学研究を中心としながらも終章等において**地理的教材としての意義を主張**するものも
- ◆**地理教育の内容を反映する特徴ある研究方法**（子どものもつ空間認知や手書き地図の実態を解明する「認知研究」）が確立

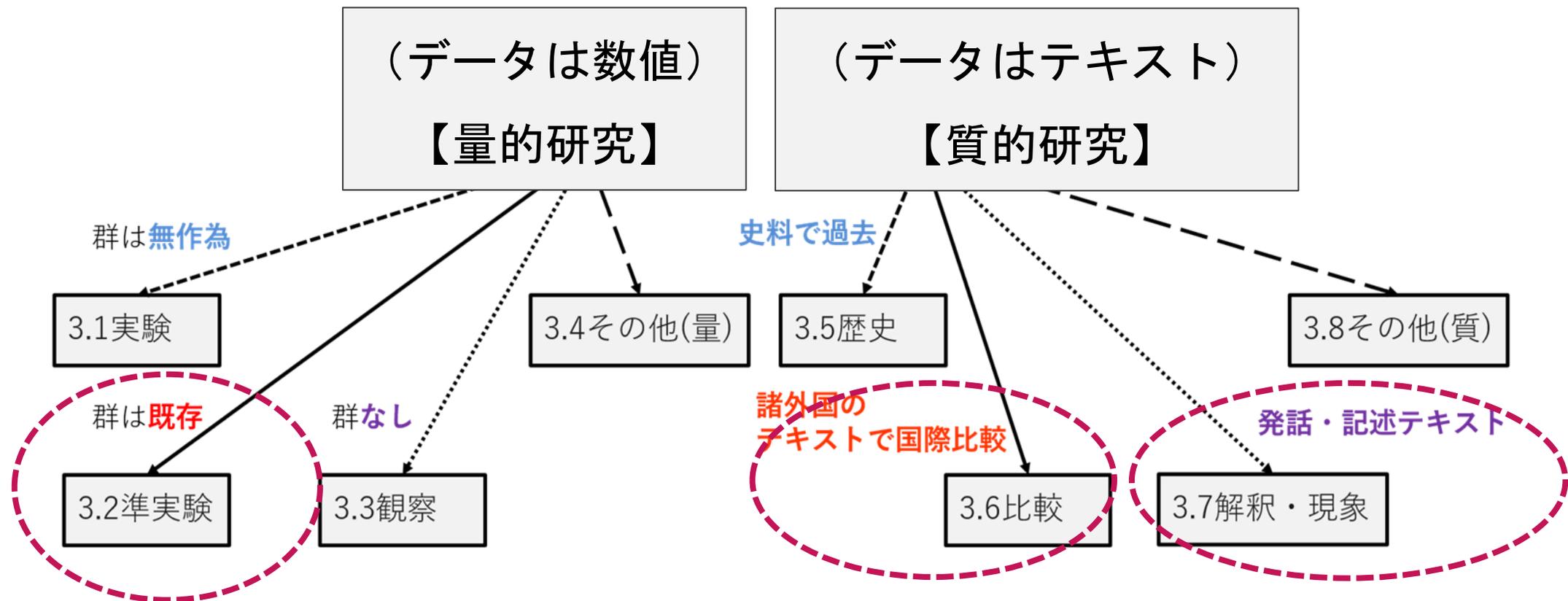
2-2-3 全国数学教育学会『数学教育学研究』誌論文の特徴と研究方法（結果）

『科学教育研究』誌の分類項目

N = 84 (件)

大分類	中分類	小分類	1981-1985	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2020	計	
1	理論・哲学		4	3	9	6	5	3	8	3	38	
2	実証（自然）											
3	実証 （人間・ 社会）	量的 研究	3.1 実験（無作為群）									
			3.2 準実験（既存群）	1	2	6	4	5	7	1	26	
			3.3 観察									
			3.4 その他（量）							1		1
		計	1	2	6	4	5	7	2		27	
	質的 研究	3.5 歴史										
		3.6 比較										
		3.7 解釈/現象		1	2	3	2	4	3	1	15	
3.8 その他（質）												
	計		1	2	3	2	4	3	1	15		
	計		5	6	17	13	12	14	13	4	84	

- ◆分類は可能だったが、数学教育学研究のメソドロジーの特色が現れにくい。
- ◆経年で見ても、トレンドの変化は読み取りづらい。



- ◆ [3.2準実験]の中に
 - ・ 実験群と統制群による比較
 - ・ 事前・事後調査による比較
 - ・ 質問紙調査（アンケート、調査問題）
- ◆ 質的[3.6比較]だけでなく
 - ・ コード（データ）化による量的研究もあれば
 - ・ 国内の教科書比較も
- ◆ [3.7解釈・現象](発話・記述テキスト)の中に
 - ・ 授業実践のプロトコル分析
 - ・ インタビュー調査
 - ・ パフォーマンス課題に対する記述分析

2-2-3 全国数学教育学会『数学教育学研究』誌論文の特徴と研究方法（結果） 22

社会科学教育研究の分類項目

N = 84 (件)

大分類	小分類	1981-1985	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2020	計
1 規範的・原理的研究	1.1 比較（諸外国）									
	1.2 歴史									
	1.3 (一般) 教育・心理学									
	1.4 人文・社会科学(哲学・歴史学・地理学等)				1					1
	計				1					1
2 実践的・開発的研究	2.1 開発研究		1	1	2	2	1	4		11
	2.2 開発+実践研究	1			1	1	4	2	1	10
	2.3 その他				1			1		2
	計	1	1	1	4	3	5	7	1	23
3 実証的・経験的研究	3.1.量的研究						1			1
	3.2.質的研究						1			1
	3.3.歴史研究									
	3.4.比較研究									
	計						2			2
4. その他	4	5	13	11	9	7	6	3	58	
		5	6	14	16	12	14	13	4	84

◆[実践的・開発的研究]の多さは把握できるが、多くは[その他]とせざるを得ない。

2-2-3 全国数学教育学会『数学教育学研究』誌論文の特徴と研究方法（まとめ）²³

- ◆ 科学教育と社会科教育の分類枠組みを用い、「科学」「社会科」と「数学」
教育研究のメソドロジの違いを浮き彫りにすることができた。
- ◆ 一方、数学教育学研究のメソドロジの特徴やその変化はとらえ難かった。



子どもの思考や認知、それらの発達の様相（子どもの理解の状態、困難性の原因、理解のプロセスなど）を捉えようとする研究が顕著

（例）一次関数の概念形成過程を捉える枠組みを構築すること

確率の概念形成過程の特徴を明らかにすること

授業の中で子どもが獲得した図形の動的な見方を明らかにすること

社会科教育学の分類に加え

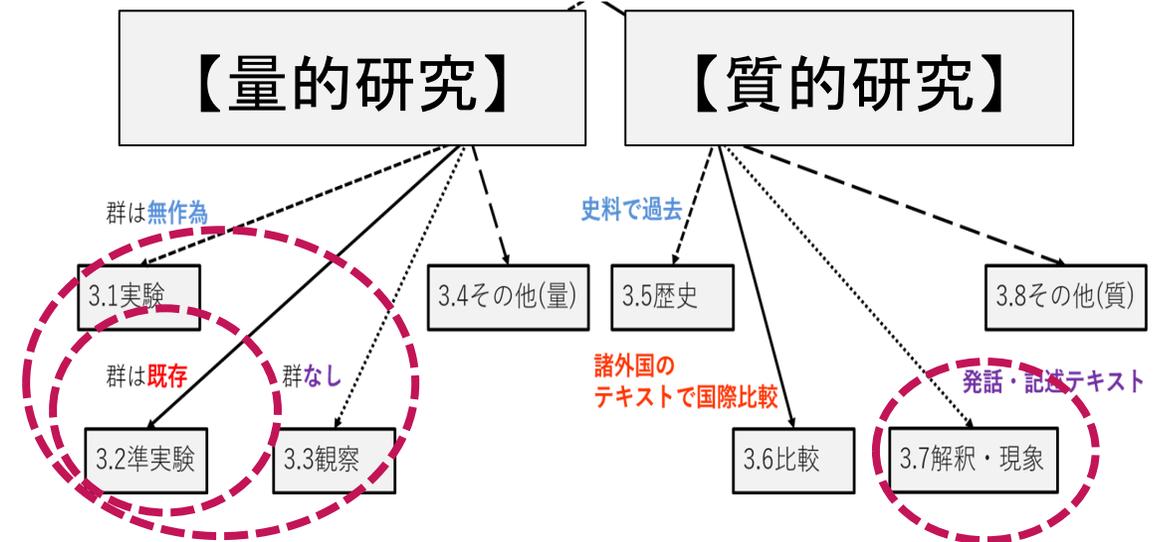
① **規範的・原理的研究**：より望ましい社会科とは何か。なぜそれは望ましいか。

② **実践的・開発的研究**：より望ましい社会科を実現するにはどうしたらいいか。なぜそうするといいか。

③ **実証的・経験的研究**：社会科は、現にどういう環境で、どのように教えられ、学ばれてきたか。それはなぜか

④ **記述的・現象的研究**：子どもの思考や認知はどのように発達するか。どのように捉えればよいか。

科学教育の分類をより詳細に



- ・ 実験・統制群による比較
- ・ 事前・事後調査による比較
- ・ 教科書比較
- ・ 国際比較
- ・ 観察・調査
- ・ その他
- ・ 歴史
- ・ 比較
- ・ 授業のプロトコル分析
- ・ インタビューの発話分析
- ・ 記述分析
- ・ その他

目的

方法

方法

			目的			
			規範・原理	実践・開発	実証・経験	記述・現象
1.理論的・哲学的研究				10		33
2.実証研究（自然）						
3.実証研究 （人間・社会）	量的研究	実験群・統制群				3
		事前・事後調査		1		2
		教科書比較		1		
		国際比較				1
		観察・調査		1	1	16
		その他				1
	質的研究	歴史				
		比較		7	1	3
		授業分析	1	1		3
		発話分析		2		
		記述分析				
その他						

2-2-4 『日本家庭科教育学会誌』論文の特徴と研究方法（結果）

		査読論文	計 (特別論文)
1	理論・哲学	1	7
2	実証 (自然)	0	0
3	実証 (人間・社会) 量的研究	3.1. 調査・実験 (無作為群)	4
		3.2. 調査・準実験 (既存群)	44
		3.3. 観察	4
		3.4. その他 (量)	3
		3.5. 歴史	5
3	実証 (人間・社会) 質的研究	3.6. 比較	8
		3.7. 解釈/現象	10
		3.8. その他 (質)	9
		1.1. 比較 (諸外国)	1
1	規範・原理	1.2. 歴史	2
		1.3. (一般) 教育・心理学	4
		1.4. 家政学 教科で変更	6
		2.1. 開発	4
2	実践・開発	2.2. 開発+実践	22
		3.1. 量的研究	47
3	実証・経験	3.2. 質的研究	35
		3.3. 歴史研究	5
		3.4. 比較研究	5

N=87, 重複あり(件)

◆ [1理論・哲学]は寄稿の (特別論文) が補っている

◆ 量的研究は大部分が[3.2調査既存群]に分類

◆ 質的研究は[3.7解釈現象][3.8その他][3.6比較] が一定数確認された

◆ [1規範・原理]の [1.4家政学]には, 食品群別の考え方や自立を扱う研究が分類された

◆ [2開発・実践] の授業開発や実践研究が一定数あり, [2.2開発・実践] 22編は全て[3実証・経験]の方法を併用

◆ [3実証・経験]の[3.1量的研究][3.2質的研究]が多い

『日本家庭科教育学会誌』における[実践・開発][実証・経験]の両要素を含む研究例

家庭内食品ロス削減行動を促す問題解決型調理実習プログラムの開発

本研究では、・・・社会心理学の観点を取り入れた「家庭内食品ロス削減行動を促す問題解決型調理実習プログラム」を、高校生を対象に実施し、その教育効果を検証した。その結果、広瀬モデルに基づく本プログラムは、学習方法としてジグソー法と問題解決型調理実習を用いたことで、教育効果の達成を導いただけでなく、学習者からも好意的に評価された。
(石島 2020 : 24)

中学校家庭科「災害時の食」教育授業のモジュール化と有用性の評価

本研究の目的は、小林・永田(2017)が開発した3時間構成の中学校家庭科「災害時の食」教育授業をモジュール化し、また、それらについて教員への調査からその有用性を検証すること・・・モジュールを位置づけた年間指導計画、各モジュールを組み合わせた授業のモデル学習指導案、ワークシート、プレゼンテーション教材を作成・開発した。・・・質問紙調査の回答理由等に関するインタビュー調査の2調査を中学校家庭科教員に実施した。調査の結果、・・・学習指導案ならびに開発した教材等は教員の指導歴に関わらず、概ね有用であることが示唆された。(小林ほか 2022 : 275)

2-2-4 『日本家庭科教育学会誌』論文の特徴と研究方法（まとめ）

- ◆ 家庭科教育学会では、10周年ごとの記念誌発行時に、研究論文の動向を主に家庭科教育の内容別と研究方法別に報告。80年代中頃から90年代、主に「質問紙調査」「文献調査」に二分されていたが、2000年代以降「質問紙法」に加え「授業研究」および「質的研究方法」の割合が増加
- ◆ 直近6年間の論文を科学教育、社会科教育と同様の分類枠組みで検討しても、2000年代以降の傾向が確認された
- ◆ 家庭科教育の場合、「授業研究」にかかる論文は、[実践・開発]と[実証・経験]的方法の両方を用いて多角的に分析されている

N = 67

目的

		目的				
		規範・原理	実践・開発	実証・経験	記述・現象	
1.理論的・哲学的研究		2	5	1	(1)	
2.実証研究(自然)						
方法	3.実証研究 (人間・社会)	量的研究				
		実験群・統制群				
		事前・事後調査				
		教科書比較				1
		国際比較				1
		観察・調査		1	2	
	その他					
	質的研究					
	歴史	1		(1)	17	
	比較				6	
	授業分析	1	10	8		
発話分析			4			
記述分析			4	1		
その他						

数学

国語

家庭科

目的

方法

			規範・原理	実践・開発	実証・経験	記述・現象
1.理論的・哲学的研究						
2.実証研究（自然）						
3.実証研究 （人間・社会）	量的研究	実験群・統制群				
		事前・事後調査				
		教科書比較				
		国際比較				
		観察・調査				
		その他				
	質的研究	歴史				
		比較				
		授業分析				
		発話分析				
		記述分析				
その他						